

次世代のこどもたちへの水道事業の理解促進に向けた取組

東京都水道局

1. 抱えていた課題

将来の水道水の利用者、水道事業の担い手として期待される世代へ、水道事業への理解や信頼を十分に獲得し、将来に向かって、持続可能な事業運営を実現させて行く必要がある。

2. 広報活動概要

○学校水道キャラバン

「水道水に対する理解や関心」をより深めるための、主に小学4年生を対象とした出前授業で、都内給水区域内の約90%の小学校(約1,200校:都内の小学校の約9割)で実施している。また、WEB上で「おうち水道キャラバン」を運営し、キャラバンで学んだことの復習やキャラバンに参加できなかった児童に対しても、水道事業を楽しめる場を提供することで、東京都の水道事業について楽しく理解を深めていくためのルールを提供

○地域水道キャラバン

「水道水に対する理解や関心」をより深めるための、主に乳幼児を子育て中の保護者を対象とした出前講座で、商業施設、児童館等でそれぞれ約50回実施している。

○水道週間作品コンクール

都営水道給水区域に在住、在学の小中学生を対象としたポスター及び作文を募集するコンクールを実施

3. 広報活動の狙い

・学校水道キャラバン

体験型学習(実験)の活用等、分かりやすくかつ興味を引く演出・構成となっており、普段の授業とは異なる学習効果がある。実際、アンケートで「わかった」と回答した児童は約90%以上であり、理解度が高かった。また、学校側からも「紙の学習だけでは理解しにくい部分があるため、こどもたちの興味関心が上がる実験はとても良かった」といった好意的な声が多かった。また、「おうち水道キャラバン」では、ゲームや動画など、児童に興味を持たせる内容のコンテンツを掲載し、より多くの児童に楽しく学べる場として工夫している。

・地域水道キャラバン

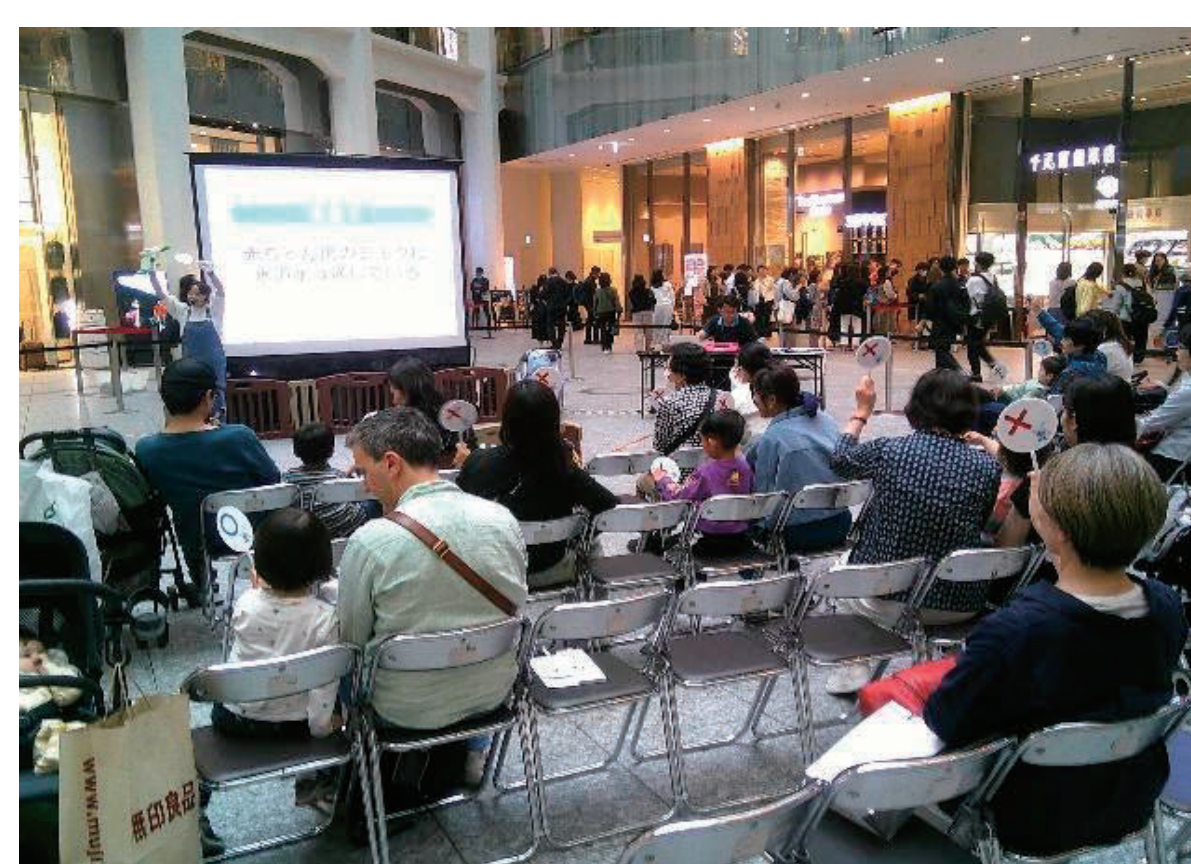
親子で楽しめる演出・構成となっており、震災対策等子育て層に関心のある内容を効果的に広報できている。実際、アンケートで「満足」「やや満足」と回答した参加者は約90%であり、高い満足度を得た。また、特に震災対策に関するテーマについて、「震災時の情報はぜひ定期的に発信していただくと助かります！勉強になりました。」といった好意的な声が多く、好評であった。

・水道週間作品コンクール

水道について、作文やポスターを作成する過程を経て、小中学生が水道について調べ、学ぶことにつながり、水道について考えをめぐらす良い機会となっている。



学校水道キャラバン



地域水道キャラバン



水道週間作品コンクール

4. PRポイント

○都内のほぼ全ての小学生が、水道事業について学ぶ機会を得ており、小さいころから水道の大切さや水を作る仕組みを学ぶことで、より水道事業に対する信頼や親近感、また水道水を飲むということにつながっているものである。

○また、水道事業について、いつでも学べる機会を提供することで、学びを深め、より身近なものとして感じてもらえるものとなっている。

○さらに、親子で学べる機会も提供することで、個人ではなく、家族と一緒に水道について学び、信頼を深めることにもつながるものとなっている。